

公益社団法人砥粒加工学会 関西地区部会報告

令和5年度 第3回研究・見学会を終えて

～製品を削るのはもったいない！鍛造のポテンシャルを学ぶ～

1. はじめに

令和5年12月4日(月)に、彦根勤労福祉会館および株式会社ミヤジマ(滋賀県多賀町)において、令和5年度関西地区部会の第3回研究・見学会が開催され、36名の参加で盛況のうちに終了しました。以下にその概要を報告します。

2. 研究会

株式会社 MOLDINO の赤松猛史関西地区部会長のご挨拶の後、「製品を削るのはもったいない！鍛造のポテンシャルを学ぶ」のテーマで3名の講師よりご講演いただきました。

まず、株式会社 MOLDINO の馬場誠様より「カーボンニュートラルを実現する多刃工具による加工提案」と題して、金型加工における加工能率向上や工具費低減、加工精度安定化、CO₂ 排出量削減などを実現する最新の多刃エンドミルを、加工事例を交えながらご紹介いただきました。次に、日本パーカライジング株式会社の小見山忍様より「冷間鍛造の潤滑と環境問題対策技術」と題して、CO₂ 排出量削減が期待される冷間鍛造の適用拡大に向けた潤滑剤の課題や、次世代潤滑剤による社会実装に向けた取り組みをご講演いただきました。最後に、株式会社ミヤジマの綿谷悠吾様より「アブセット鍛造技術の紹介」と題して、宮嶋式弁棒鍛造装置を用いた各種シャフトのアブセット鍛造の特徴と、材料費削減や加工時間短縮などのメリットについてご説明いただきました。材料ロスが小さい鍛造技術から関係する工具や潤滑剤まで広くご講演いただき、鍛造のポテンシャルを感じる、充実した研究会となりました。

3. 見学会

研究会終了後、彦根市隣接の多賀町にある株式会社ミヤジマに移動し、社長の宮嶋俊介様にご講演いただきました。「ものづくりは人づくりから」の考えのもとで率先垂範を実行し、人づくりを進めながら会社を成長軌道に乗せた宮嶋社長の、熱のこもったお話であったという間に時間が過ぎていきました。人を育てる点でも産学ともに参考になる、貴重なご講演でした。

その後、アブセット鍛造を中心に工場を見学させていただきました。研究会で綿谷様にご説明いただいた後に実際の鍛造工程を間近に見ることで、アブセット鍛造への理解が更に深まりました。鍛造金型の外注と内製の併用、アブセット鍛造の自動化など、納期やコストでの更なる競争力向上への様々な取り組みもご説明いただきました。また、鍛造では避けられない騒音・振動対策として、工場周辺の農地をグループ会社のファーム部門で取得し、稲作をしていることも印象に残りました。

4. おわりに

見学会終了後は彦根市内に場所を移して、技術交流会が開催されました。参加者同士の活発な意見交換ができ、非常に貴重な場となりました。



赤松会長 ご挨拶



馬場様 ご講演



小見山様 ご講演



綿谷様 ご講演



研究会の様子



宮嶋社長 ご講演



見学会の様子

末筆になりましたが、今回の研究・見学会開催にあたり、多大なるご支援、ご協力をいただきました株式会社ミヤジマの皆様と、講師の方々に心より御礼申し上げます。関西地区部会では、今後も会員の皆様に興味を持っていただける技術交流の機会を設けてまいります。次回以降もご参加のほどよろしくお願いたします。

(文責: 中村暢秀)